

## II. 方法

検査部内の採血ワーキンググループでは、実施するにあたっての問題点を挙げ、その問題点に対して、どのようにしたら円滑に病棟採血業務を実施することができるかを検討した。検討内容は採血時間、対象病棟、採血担当技師数、対象患者、検査部側の条件等であり、それにより、病棟採血アクションプランを作成した。看護部では、このアクションプランをスタートできる病棟として、3-7病棟を選択し、病棟でも方法を検討し実施に至った。

## III. 効果

病棟採血後の意識調査を行った。検査技師が病棟採血業務を行うことの効果として、看護部側では①採血業務にかかっていた時間を他の業務に使

える、②患者への対応に余裕ができる、③検温にスムーズに回れる、④看護業務の負担が軽減した、等が挙げられた。また、検査技師側では①臨床支援・看護師の負担軽減に貢献、②患者への意識が高まる、③採血技術が向上、④患者に臨床検査技師の業務に関心をもってもらう機会になれる、等々と回答された。

## IV. まとめ

検査技師が病棟採血に携わることにより、チーム医療の一員としての認識が高まっている。また、看護師においては、看護の質の向上に繋げることができる考える。今後は技師・看護師の相互理解の基、スキルミックスを推進しそれぞれの職種が専門性を発揮し、より質の高い医療の提供をしていきたい。

## 新人看護職員と実地指導者の親睦研修～活動報告～

看護部 教育担当者 研修企画担当

3-4病棟 杉山 倫代 梅木真理子

6-3病棟 太田亜希子 畑中 美乃

3-7病棟 牧野 仁美 高橋 涼子

## I. はじめに

当院は新人看護職員教育体制として、プリセプター・チューター制度を行っている。新人看護職員の個別指導や精神的なサポート役としてのプリセプター・チューター（以降実地指導者とする）をつけることで、新人看護職員への効果的な教育やストレス緩和・職場環境への早期適応を促すこと、また、実地指導者についても看護職員・指導者として成長することを目的としている。今回、平成24年度の実地指導者の1年の振り返りの中で、新人ともっと早い段階から関係性を深める為の研修や親睦会などがあれば良かったという意見があった。そこで新人看護職員と実地指導者との親睦研修を企画・実施し、結果として新人看護職員と実地指導者がお互いを知る機会となり、関係性の向上に効果があった為報告する。

## II. 研修目的

新人看護職員と実地指導者が親睦を深め、人間関係の構築につなげる

## III. 方法

1. 対象：新人看護職員22名、実地指導者22名  
計44名
2. 研修内容：新人看護職員と実地指導者が、お互いの好むパンケーキを作り、ティータイムの時間を通して「今後2人が目指す関係性」などを記入するメッセージカードを作成し、親睦を深める。
3. データの収集方法：研修終了後、研修1ヵ月後にアンケートを実施。目的が達成されたかとその理由を記載する独自の質問紙を作成した。

#### IV. 結果

研修終了時、研修1ヵ月後のアンケート結果を下記に示す。

＜親睦研修修了時＞

1. 共同作業を通して、仕事とは違う一面（表情、取り組み方、器用さなど）を見ることができた。
2. メッセージカードを作成したことで、お互いどう思っていたのか、どう思われていたのか分かりあえてよかった。
3. 研修を受けたことで、今後相談し合える関係になれそう。

＜親睦研修1ヵ月後＞

1. 研修に参加したことで、もっと自分の気持ちをうちあけて良いと思うようになった。
2. お互い話しやすい雰囲気になり、声をかけやすくなった。

3. 仕事が終わった後に話をする機会も増え、実地指導者がいない状況の時にうけた指導について、自分から話をするようになった

#### V. おわりに

今回の親睦研修は新人看護職員と実地指導者がお互いに良い関係性を築く機会となった。研修参加者からは、入職して仕事に慣れる前の辛い時期にこのような研修があったことで普段はしない話をしたり、相談しやすくなったなどの意見を聞くことができた。初めての取り組みで不安もあったが、目的達成ができ良かったと感じている。今後も、新人看護職員・実地指導者・病棟スタッフが、共に成長し合える関係作りができるような研修の企画、運営をするなどサポートしていきたい。

## 呼吸サポートチーム（RST）活動について

臨床工学課 岡本 奉之

呼吸サポートチーム（以下RST）とは、院内の呼吸ケアに関する知識、技術の向上と標準化を図り、人工呼吸器からの早期離脱・再挿管率の軽減・人工呼吸器関連肺炎の予防など、RST活動の推進を通して医療の質の向上を目指すことを目的としています。当院では2010年度の診療報酬改訂時にRSTの立ち上げを検討しましたが、医師の体制が整わず発足に至りませんでした。昨年4月に麻酔科医の増員に伴い麻酔科の協力を得られることになり発足準備を始め、昨年9月には病院が認めた正式な会として医療安全推進委員会の下部、正式名称を呼吸ケア作業部会とし活動を開始しました。

構成メンバーは中島麻酔科部長を委員長とし、麻酔科・救急科医師4名、看護師5名、臨床工学技士4名、理学療法士3名、栄養士3名、ケースワーカー

1名、医事課職員1名である。

活動は毎週金曜日の午後より人工呼吸器装着患者の所に医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士の4職種が1チームとするRSTチームでラウンドを行い、人工呼吸器からの早期離脱に向けて各分野からの治療方針や設定などの提案などのアドバイスを主治医や担当医に行っている。また情報データを共有するため、yahgee文書を使用している。

その他の活動としては月に1回、呼吸ケア作業部会の定例会を開催している。

今後の活動予定としては、呼吸管理に対する教育としてRST主催の勉強会の開催や院内統一した酸素療法、吸入療法、呼吸訓練、人工呼吸器装着中の看護などの呼吸サポートに関する各種マニュアルの作成を行っていく予定である。